

焼肉ドラゴン (2018)

メディア 映画

ジャンル ドラマ コメディ

製作国 日本

色彩 Color

時間 127分

初公開日 2018/06/22

公開情報 KADOKAWA=ファントム・フィルム

映倫 G

【キャッチコピー】

たとえ明日がどんなでも、
明日はきっとええ日になる。

【解説】

「愛を乞うひと」「血と骨」などの映画脚本でも知られる人気劇作家・演出家の鄭義信が、数々の賞に輝いた自身のヒット舞台を、自ら初監督を務めて映画化した感動の人情コメディ。大阪万博前後の関西の下町を舞台に、小さな焼肉店を営む在日コリアン一家が、時代の波に翻弄されながらも逞しく生きていく姿を笑いと涙で綴る。出演は真木よう子、井上真央、桜庭ななみ、大泉洋らに加え、両親役には韓国の名優キム・サンホ、イ・ジョンウン。

大阪万博が目前に迫り活気溢れるとある地方都市の路地の一角。第二次世界大戦で左腕を失った龍吉は、故郷の済州島を追われて来日した英順と再婚し、ここで小さな焼肉店“焼肉ドラゴン”を開業し、4人の子どもたちを育てるために身を粉にして働いてきた。そんな中、中学生になった末っ子の時生は学校でイジメに遭い心を閉ざしてしまう。一方、次女の梨花は、夫・哲男が幼なじみでもある長女・静花への恋心を今も捨てきれずにいることに苛立ちを募らせていくのだったが…。

【クレジット】

監督	鄭義信
企画・プロデューサー	清水啓太郎
企画プロデューサー	江守徹
	佐々木弘毅
エグゼクティブプロデューサー	小西啓介
	堀内大示
	巖本博
	畠中達郎
	本間憲
	岡田美穂
	高橋一仁
	岩崎アキ子
	三宅容介
	梅川治男
プロデューサー	森重晃
原作	鄭義信
脚本	鄭義信
撮影	山崎裕

(戯曲『焼肉ドラゴン』)

美術	磯見俊裕	
編集	洲崎千恵子	
音楽	久米大作	
照明	尾下栄治	
録音	吉田憲義	
製作統括	小西啓介	
	加茂克也	
装飾	中込秀志	
VFXスーパーバイザー	オダイッセイ	
記録	永倉美香	
監督補	吉見拓真	
出演	真木よう子	長女・静花
	井上真央	次女・梨花
	大泉洋	哲男
	桜庭ななみ	三女・美花
	大谷亮平	長谷川さん
	ハン・ドンギョ	尹大樹
	イム・ヒチョル	呉日白
	大江晋平	末っ子・時生
	宇野祥平	呉信吉
	根岸季衣	美根子
	イ・ジョンウン	母・英順
	キム・サンホ	父・龍吉